

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2017年3月期 第3四半期 連結決算概況と通期見通し

2017年2月2日
オリンパス株式会社
取締役副社長執行役員 CFO
竹内 康雄

(スライド1)

- オリンパスの竹内です。
- ご多忙の中、オリンパス株式会社「2017年3月期第3四半期決算説明会」にお集まりいただき誠にありがとうございます。
- それでは早速、決算概況についてご説明申し上げます。

第3四半期実績

- 連結： 第2四半期決算時公表の年間見通しに沿った進捗
- 医療： 新興国地域が牽引し、安定成長トレンドを継続
- 科学・映像： 第3四半期累計実績で黒字転換

通期業績見通し

- 為替見通しを円安方向に見直し、営業利益以下の段階利益が改善
- 当期純利益は過去最高の前年度に次ぐ水準

(スライド2)

- スライドの2ページをご覧ください。
- 今第3四半期決算における主なポイントはこちらの3点です。
- 第3四半期累計の連結実績の進捗は、前年同期比では円高の影響で減収減益となったものの、概ね先の第2四半期決算発表時公表の見通しに沿った推移となりました。
- 事業ごとに見ますと、医療事業は新興国が牽引し、堅調に推移しております。
- 科学および映像事業につきましては、第2四半期までの営業損失から反転し、第3四半期累計で営業利益を計上しました。
- 通期業績見通しにつきましては、
- 為替見通しを円安方向に見直した結果、営業利益以下の段階利益が改善する見込みです。
- 当期純利益は600億円となり、過去最高だった前年度に次いで2番目の水準となる見通しです。

2017年3月期 第3四半期 連結業績および事業概況

(スライド3)

- それでは、第3四半期の決算概況について、詳しくご説明申し上げます。

2017年3月期 第3四半期実績 ①連結業績概況

- ① 為替影響を主要因として前年同期比は減収減益も、医療事業が堅調に推移し、為替影響調整後は増収増益
- ② 第3四半期は科学・映像事業も回復に推移して黒字となり、利益に貢献

(単位：億円)	3Q実績 (10-12月)				3Q累計実績 (4-12月)			
	2016年3月期	2017年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2016年3月期	2017年3月期	前年同期比	為替影響調整後
売上高	1,968	1,835	▲7%	+3%	5,925	5,335	▲10%	+1%
売上総利益 (売上総利益率)	1,310 (66.6%)	1,210 (65.9%)	▲8%	+6%	3,938 (66.5%)	3,538 (66.3%)	▲10%	+3%
営業利益 (営業利益率)	236 (12.0%)	204 (11.1%)	▲14%	+29%	737 (12.4%)	547 (10.3%)	▲26%	+8%
経常利益 (経常利益率)	212 (10.8%)	156 (8.5%)	▲26%		647 (10.9%)	445 (8.3%)	▲31%	
当期純利益(※) (当期純利益率)	70 (3.6%)	189 (10.3%)	+169%		429 (7.2%)	411 (7.7%)	▲4%	
円/USD	122円	109円			122円	107円		
円/Euro	133円	118円			134円	118円		
為替影響：売上高	-	▲201億円			-	▲662億円		
為替影響：営業利益	-	▲100億円			-	▲246億円		

4 2017/2/2 No data copy / No data transfer permitted

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益

OLYMPUS

(スライド4)

- スライドの4ページをご覧ください。
- こちらは連結の業績概況です。
- 円高による為替のマイナス影響を大きく受け、第3四半期累計の売上高は前年同期比10%減の5,335億円、営業利益は同26%減の547億円と、前年同期比では減収減益となりました。
- しかし、ハイライトしてございますように、為替を除いた実質ベースでは、堅調な医療事業に加え、科学・映像事業も事業環境の改善や新製品効果によって営業利益を計上したことで、第3四半期では営業利益が29%増と大きく改善し、第3四半期累計でも増収増益となっております。
- 営業利益率は、科学・映像事業の業績改善に伴い、第2四半期累計の9.8%から10.3%へと改善しました。
- 経常利益は、営業利益の減少の影響を受け、前年同期比では31%減の445億円となりました。
- 当期純利益は、経常利益段階までの影響を受けつつも、特別損益の改善や繰延税金資産の計上等により税金費用が減少したため、ほぼ前年並みの411億円となりました。

2017年3月期 第3四半期実績 ②セグメント別概況

■ 第3四半期に入り事業環境が徐々に改善、為替影響調整後では当第3四半期に主要3事業が増収増益

(単位：億円)		3Q実績 (10-12月)				3Q累計実績 (4-12月)			
		2016年3月期	2017年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2016年3月期	2017年3月期	前年同期比	為替影響調整後
医療	売上高	1,473	1,385	▲6%	+5%	4,452	4,103	▲8%	+4%
	営業利益	308	262	▲15%	+13%	986	828	▲16%	+6%
科学	売上高	251	231	▲8%	+3%	735	633	▲14%	▲2%
	営業利益	22	19	▲14%	+46%	56	13	▲77%	▲29%
映像	売上高	205	190	▲7%	+1%	620	488	▲21%	▲13%
	営業利益	1	22	+21億円	+24億円	1	7	+6億円	+11億円
その他	売上高	39	30	▲25%	▲22%	118	111	▲6%	▲3%
	営業利益	▲16	▲9	-	-	▲48	▲29	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲79	▲90	-	-	▲258	▲271	-	-
連結合計	売上高	1,968	1,835	▲7%	+3%	5,925	5,335	▲10%	+1%
	営業利益	236	204	▲14%	+29%	737	547	▲26%	+8%

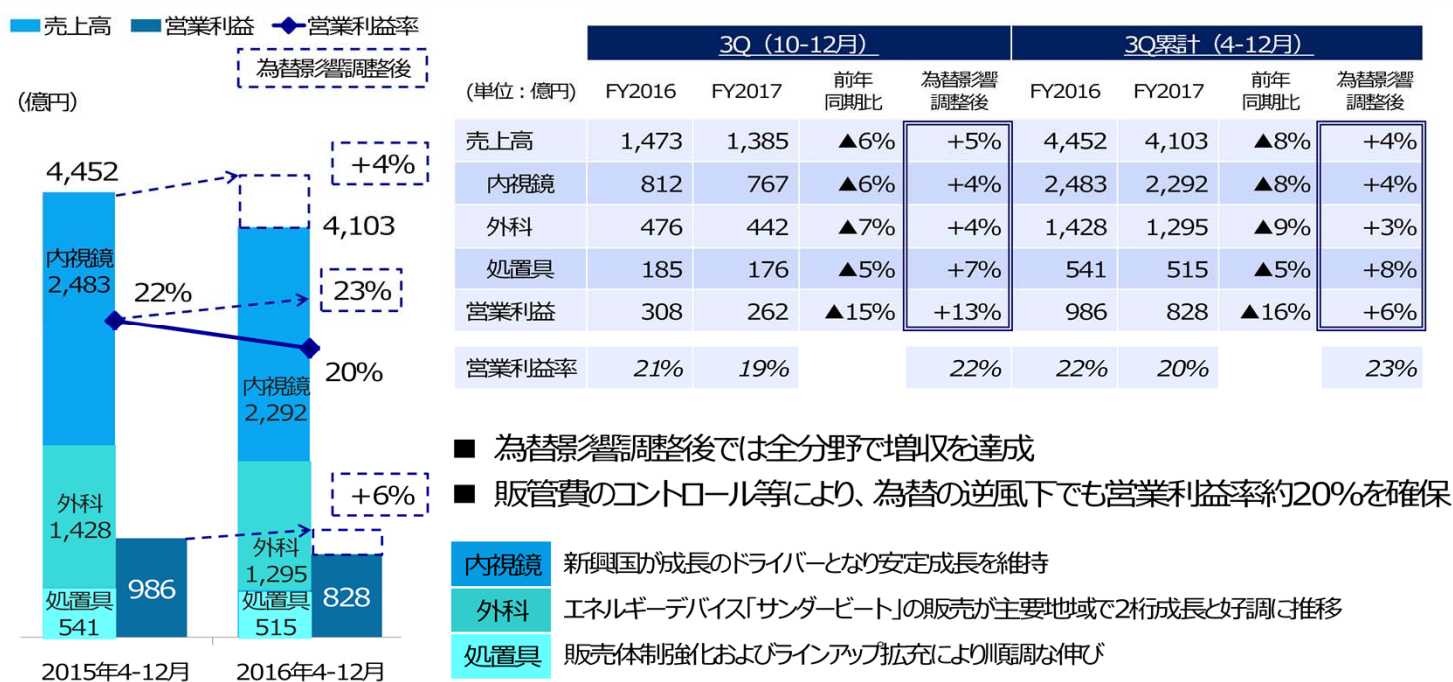
5 2017/2/2 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

(スライド5)

- スライドの5ページをご覧ください。
- こちらはセグメント別の概況です。
- 医療および科学事業では、連結業績でご説明いたしましたように、円高の影響を受け前年同期比で減収減益となった一方で、ミラーレス一眼の新製品導入効果や普及モデルの販売価格維持等により映像事業は増益となりました。
- 為替を除いた実質ベースでは、当第3四半期において主要3事業すべてで増収増益を達成しております。

2017年3月期 第3四半期実績 ③医療事業



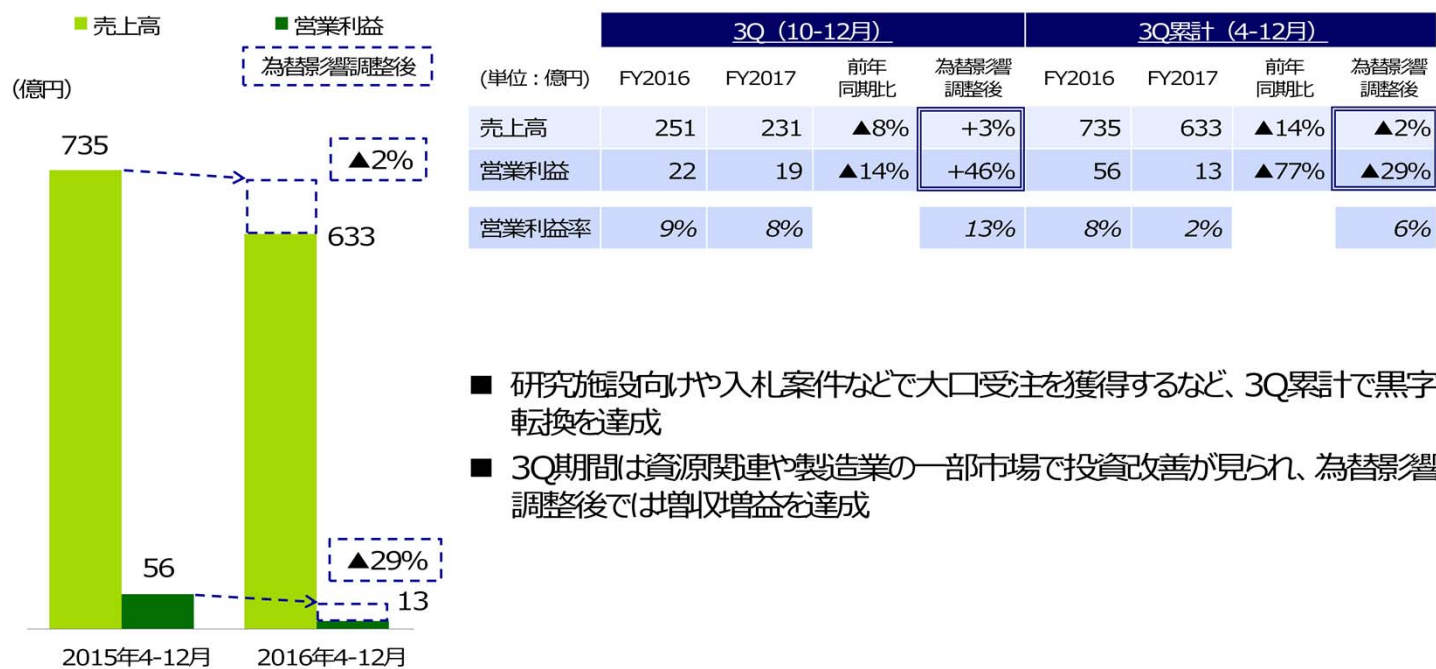
6 2017/2/2 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

(スライド6)

- スライド6ページをご覧ください。
- 続きまして事業別の決算状況をご説明いたします。まずは医療事業です。
- 医療事業の第3四半期累計の売上高は、主に為替影響により前年同期比8%減収の4,103億円となりましたが、為替を除いた実質ベースでは、内視鏡・外科・処置具の全分野で増収を達成しています。
- 消化器内視鏡分野は、好調なアジア等の新興国が成長のドライバーとなり、安定した成長を継続しています。
- 外科分野は当初見込みまでには至っていませんが、引き続きサンダービートが日欧米と中国で販売を拡大し、期を追うごとに成長率が向上しております。
- また、処置具分野はアジアが高い成長を維持しているほか、先進国においても販売体制強化およびラインアップ拡充の効果もあり、順調に推移しました。
- 営業利益については円高など厳しい事業環境ではありましたが、継続的に進めているコスト管理の徹底の効果もあり、営業利益率はほぼ前年並みの20%、為替を除く実質ベースでは23%を確保しています。
- なお、左の棒グラフですが、点線で囲った数値は前期と同じ為替レートで比較した場合の売上高および営業利益の増減率と、営業利益率をそれぞれ記載しております。

2017年3月期 第3四半期実績 ④科学事業



- 研究施設向けや入札案件などで大口受注を獲得するなど、3Q累計で黒字転換を達成
- 3Q期間は資源関連や製造業の一部市場で投資改善が見られ、為替影響調整後では増収増益を達成

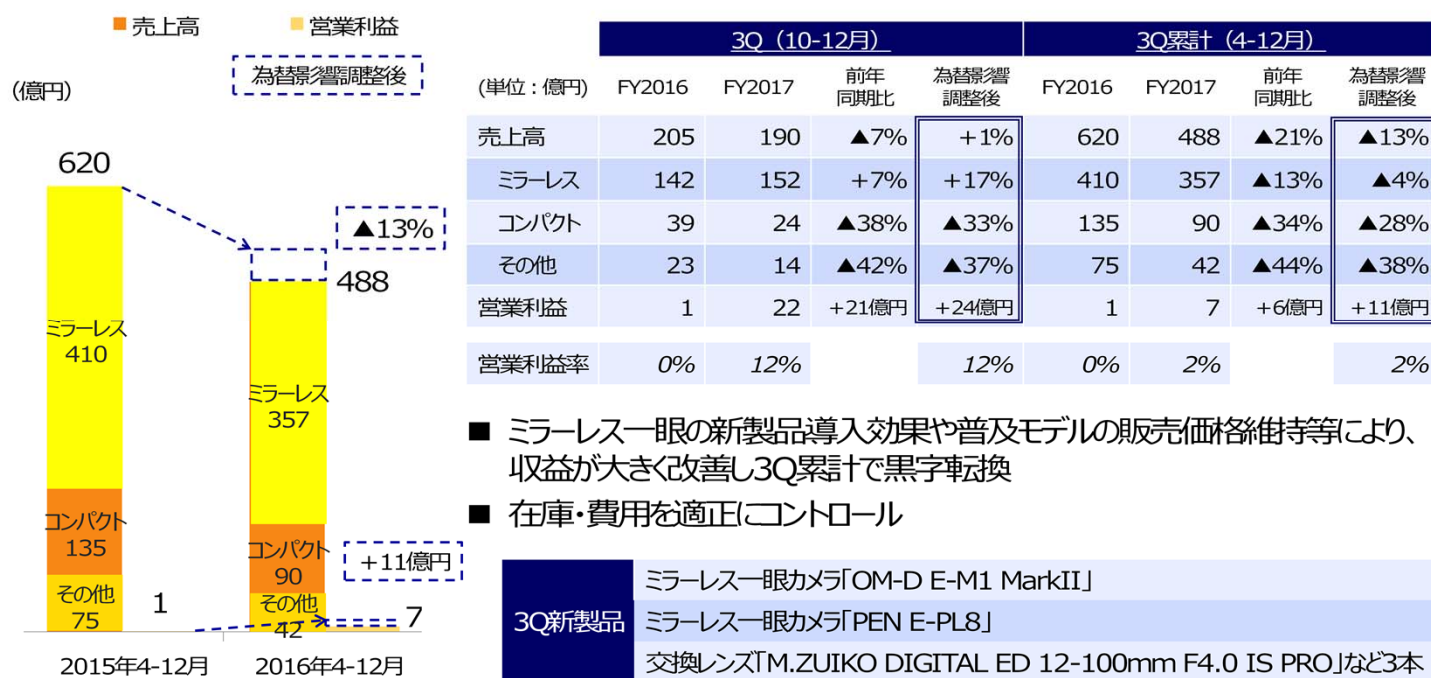
7 2017/2/2 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

(スライド7)

- スライド7ページをご覧ください。
- 次に科学事業の概況です。
- 第3四半期累計の売上高は前年同期比14%減収の633億円、営業利益については前年同期比77%減益の13億円となりました。
- 為替影響を中心に、引き続き減収減益とはなっておりますが、第3四半期においては、資源安による資源関連投資の低迷や国内設備投資の抑制が続いてきた事業環境の一部で回復が見られ、第2四半期までの営業損失という状況からは改善し、第3四半期累計で営業利益は黒字に転換しております。

2017年3月期 第3四半期実績 ⑤映像事業



- ミラーレス一眼の新製品導入効果や普及モデルの販売価格維持等により、収益が大きく改善し3Q累計で黒字転換
- 在庫・費用を適正にコントロール

(スライド8)

- スライドの8ページをご覧ください。
- 映像事業の概況です。
- 第3四半期累計では、市場規模の縮小および熊本地震の影響などにより、売上高は前年同期比21%減収の488億円となりましたが、営業利益については新製品導入の効果や販売価格の維持により、前年同期比6億円増益の7億円となりました。

連結貸借対照表

- 純資産 : 当期純利益411億円の計上により利益剰余金が増加
- 有利子負債 : 社債の償還等により142億円圧縮し3,070億円
- 自己資本比率 : 利益剰余金の増加および有利子負債を圧縮したことで42.1%

(単位: 億円)	2016年 3月末	2016年 12月末	増減額		2016年 3月末	2016年 12月末	増減額
流動資産 (デジカメ在庫)	5,207 (144)	5,225 (141)	+18 (▲3)	流動負債	2,666	2,656	▲10
有形固定資産	1,661	1,729	+69	固定負債 (うち社債・長期借入金)	3,497 (2,645)	3,108 (2,314)	▲389 (▲331)
無形固定資産	1,508	1,407	▲101	純資産	3,843	4,216	+373
投資その他資産	1,631	1,619	▲12	(自己資本比率)	(38.2%)	(42.1%)	(+3.9pt)
資産 合計	10,006	9,980	▲26	負債 純資産 合計	10,006	9,980	▲26

有利子負債: 3,070億円 (2016年3月末比▲142億円)

OLYMPUS

(スライド9)

- スライド9ページをご覧ください。
- バランスシートの状況です。
- 総資産は、前期末とほぼ変わらず9,980億円となりました。
- 純資産は当期純利益411億円の計上により前期末比373億円増の4,216億円となり、有利子負債の削減も進んだ結果、自己資本比率は3.9ポイント改善の42.1%となりました。

連結キャッシュフロー計算書

■ 事業の成長に向けた投資を着実に行いつつ、267億円のフリーキャッシュフローを確保

(単位：億円)	2016年3月期3Q	2017年3月期3Q	増減
売上高	5,925	5,335	▲590
営業利益	737	547	▲189
(営業利益率：%)	12.4%	10.3%	▲2.1pt
営業キャッシュフロー	849	691	▲158
投資キャッシュフロー	▲393	▲424	▲31
財務キャッシュフロー	▲460	▲252	+207
キャッシュフロー	▲4	15	+19
フリーキャッシュフロー	456	267	▲189
現金及び現金同等物期末残高	2,088	1,668	▲420
減価償却費	292	333	+41
のれん償却額	75	64	▲11
設備投資額	485	409	▲77

OLYMPUS

10 2017/2/2 No data copy / No data transfer permitted

(スライド10)

- スライド10ページをご覧ください。
- キャッシュフローの状況です。
- 医療事業を中心とした事業が堅調に推移し、営業キャッシュフローは691億円となりました。
- 投資キャッシュフローは、投資有価証券や子会社株式の売却による収入があった一方、医療事業の製造拠点や八王子の研究開発拠点を拡張するための設備投資による支出があったことで、424億円のマイナスとなりました。
- 以上により、フリーキャッシュフローは267億円のプラスとなっております。

2017年3月期 通期業績見通し

(スライド11)

- 次に通期業績見通しについてご説明申し上げます。

2017年3月期 通期業績見直し

■ 為替を円安方向に見直し、営業利益以下の段階利益を上方修正

(単位：億円)	2017年3月期 (2Q時見直し)	2017年3月期 (最新見直し)	2Q時見直し比	為替影響調整後 2Q時見直し比	前期比	為替影響調整後 前期比
売上高	7,430	7,430	-	▲2%	▲8%	+2%
売上総利益 (売上総利益率)	4,960 (66.8%)	4,950 (66.6%)	▲0%	▲2%	▲7%	+4%
営業利益 (営業利益率)	720 (9.7%)	760 (10.2%)	+6%	+1%	▲27%	+1%
経常利益 (経常利益率)	600 (8.1%)	630 (8.5%)	+5%		▲31%	
当期純利益(※) (当期純利益率)	570 (7.7%)	600 (8.1%)	+5%		▲4%	
EPS	167円	175円	+9円			
円/USD	105円	109円	+4円(円安)			
円/Euro	117円	119円	+2円(円安)			
影響額：売上高	-	+140億円				
影響額：営業利益	-	+30億円				

2017年3月期年間配当
 期末配当28円を予定
 (変更なし)

12 2017/2/2 No data copy / No data transfer permitted

(※) 親会社株主に帰属する当期純利益

OLYMPUS

(スライド12)

- スライド12ページをご覧ください。
- 第2四半期決算時の見直しに対し、売上高は7,430億円で据え置きましたが、営業利益は40億円増の760億円、当期純利益は30億円増の600億円と、上方修正しております。
- なお、為替前提ですが、第4四半期の見直しを1ドル=115円、1ユーロ=120円とし、年間では1ドル=109円、1ユーロ=119円の見直しです。
- 為替を除いた実質ベースでは、第3四半期までの進捗を踏まえ、売上高の見直しを若干引き下げました。
- 一方、営業利益は、引き続き全社的にコスト管理を徹底することで、前回見直しからの改善を見込みます。
- 営業利益以下は、営業利益の改善に伴い、経常利益、当期純利益についても前回見直しから上方修正しました。
- 期末配当については従来通り、28円を予定しております。(連結配当性向：16%)

2017年3月期 セグメント別業績見通し

- ① 医療 : 第3四半期までの実績を踏まえ、現地通貨ベースでは売上高および営業利益の見通しを修正。円ベースでは2Q時見通しを維持
- ② 科学・映像 : 第3四半期における事業の回復を受けて、営業利益を上方修正

(単位：億円)		2017年3月期 (2Q時見通し)	2017年3月期 (最新見通し)	2Q時見通し比	為替影響調整後 2Q時見通し比	前期比	為替影響調整後 前期比
医療	売上高	5,760	5,760	-	▲2%	▲5%	+5%
	営業利益	1,170	1,170	-	▲3%	▲17%	+2%
科学	売上高	890	890	-	▲2%	▲12%	▲3%
	営業利益	10	20	+100%	+48%	▲76%	▲30%
映像	売上高	650	650	-	▲1%	▲17%	▲9%
	営業利益	▲30	0	-	-	-	-
その他	売上高	130	130	-	-	▲18%	▲15%
	営業利益	▲60	▲60	-	-	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲370	▲370	-	-	-	-
合計	売上高	7,430	7,430	-	▲2%	▲8%	+2%
	営業利益	720	760	+6%	+1%	▲27%	+1%

13 2017/2/2 No data copy / No data transfer permitted

OLYMPUS

(スライド13)

- スライド13ページをご覧ください。
- セグメント別の業績見通しです。
- 医療事業は、円ベースでは売上高・営業利益とも見通しを変更しておりません。しかしながら為替を除く実質ベースでは、主に外科分野における第3四半期までの進捗を踏まえ年間の見直しを見直しております。
- これにより、実質ベースの医療事業の成長率は5%の見込みとしています。
- 科学事業は、第3四半期における事業の回復を受けて、営業利益を10億円増益の20億円としました。
- 映像事業は、熊本地震の影響があったものの価格維持による粗利増等により、ブレークイーブンを達成できる見込みです。

OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確実性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性を照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

(スライド14)

- 最後になりましたが、昨年2016年は大きな政治イベントの影響を受け、為替をはじめとした外部環境が急激に変化しました。
- そうした環境においても、中期経営計画（16CSP）で掲げた2021年3月期の数値目標達成に向け、各事業や研究開発、製造、販売など各機能が施策を実行し、着実に前進しています。
- 2017年も外部環境の先行きに不透明な状況が続いておりますが、まずは今年度の残り2か月間、本日お話しした数値をしっかりとやり遂げ、来期以降の業績拡大につなげてまいります。
- 私からは以上です。
- ご清聴ありがとうございました。